

神奈川県農業総合研究所 葉根菜試験成績報告 No. 20 (1989.3)

1. 研究課題名 ルバーブの栽培法確立試験
イ. ほ場軟化法における軟化期間の検討
2. 担当者 成松 次郎
3. 目的 前年度に引き続き、軟化期間の長短が軟化葉の収量と根株の草勢に及ぼす影響を
検討する。
4. 試験研究方法
 - (1) 品 種 マイヤッツ・ビクトリア
 - (2) 軟化方法
 - ア. 供試個体 前年度使用株(実生より育成した2年目の株)
 - イ. 栽植方法 条間90cm, 株間45cm。
 - ウ. 遮光方法 反射性フィルム(シルバーポリトウ厚さ0.1mm, 幅185cm)を, ほう芽期の
1988年3月4日にトンネル状に被覆し, それぞれの設定期間中, 遮光を行
い収穫をした。
 - (3) 試験区
 - a. 短期軟化(4月11日まで遮光・収穫)
 - b. 中期軟化(4月22日 ")
 - c. 長期軟化(5月2日 ")
 - (4) 試験区の大きさ 1区 15~16株 反復なし
 - (5) 調査方法 ほぼ5日おきに観察し, 葉柄長が30cm以上に達した葉を収穫し, 本数と葉柄重
を記録した。
5. 結果の概要・要約
 - (1) ほう芽開始は3月上旬となり, 収穫は3月28日より始まった。
 - (2) 収量に関しては, 短期軟化区では1株当たり合計595g, 中期軟化区は1,072g, 長期
軟化区は932gとなり, 全区とも4月6日に最大収量を示した(第1表)。
 - (3) 品質的には, 後期に収穫された葉柄は細く, 赤色発現は, 初期収穫のものに比べて悪かった。
 - (4) 長期軟化区は, 収穫終了後の株の弱勢化がみられ, 収量も多くないなどのことから, 適切な
軟化法ではないと判断される。また, 一定の収量性を求めることから, 中期軟化区が良いと
考えられた。
以上のことから, 前年度の結果と併せて, 中期軟化, すなわち収穫期間が30日程度となる
軟化期間を設定するのが良いと思われる。